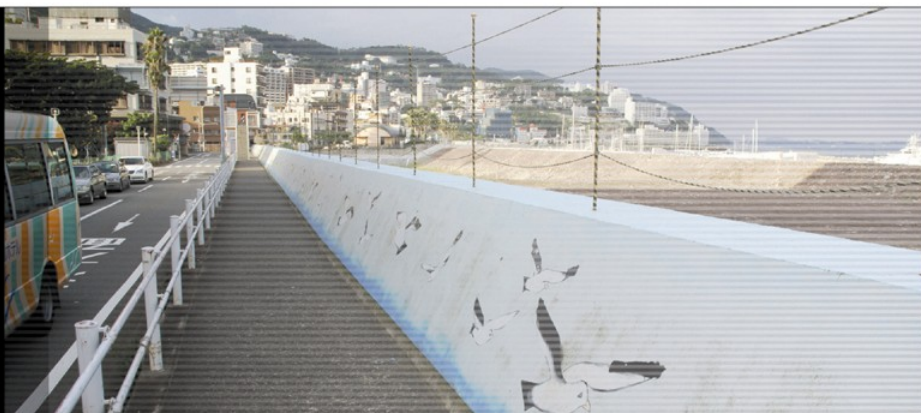


色彩景観の現況



景観色彩調査の手法について

本調査においては、景観要素の色彩を客観的に数値化することのできるマンセル表色系を採用し、色彩計測を行っている。

ここでは、マンセル表色系の概要と、色彩計測調査の実施手順を解説する。

本調査における表色の方法

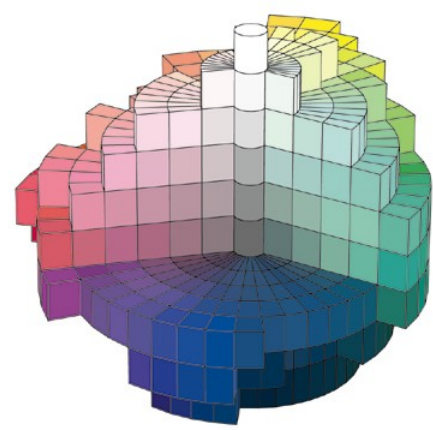
一般的に特定の色を表現する際には「赤」や「青」などの色名を用いることが多い。また、従来の景観形成に関するガイドラインや基準等においては、「けばけばしい色彩」、「調和した色彩」など、形容詞や形容動詞などで色彩の状態を表す例が多くみられる。

しかし、こうした表色方法では解釈に個人差が生じ、客観的に正確な色彩を伝達することが難しい。このため、より多くの人々が共通の認識とルールをもつ必要のある色彩調査や色彩基準づくりの表色方法としては適合しにくい面もある。

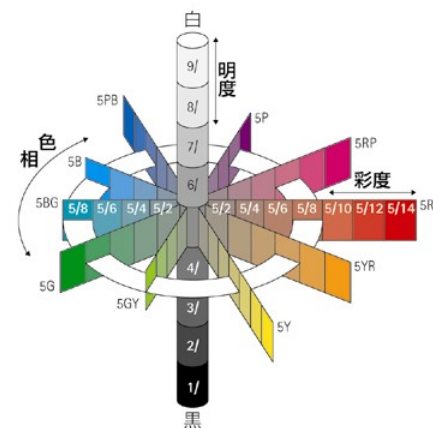
そこで、本調査においては、従来の色名による表記も一部に用いながら、データや色彩基準など精度が要求されるものについては、国際的な表色系であり、JIS規格などにも採用されている「マンセル表色系」を用い、より客観的に表記することとする。

マンセル表色系

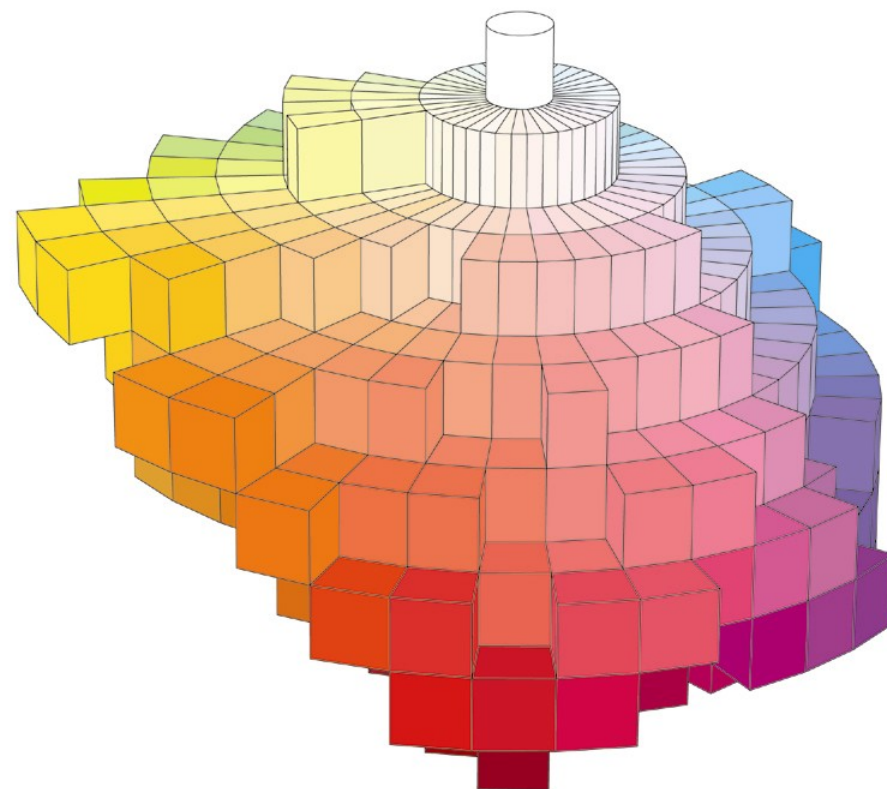
マンセル表色系は、「色相 (Hue)」、「明度 (Value)」、「彩度 (Chroma)」の3つの属性の組み合わせによってひとつの色を表すシステムである。



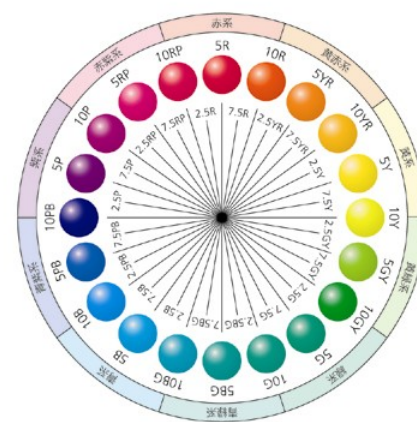
■図 マンセル色立体の断面



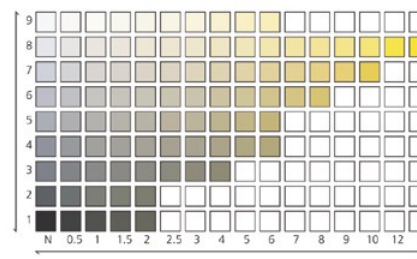
■図 マンセル色立体の構造



■図 マンセル色立体



■図 マンセル色相環



■写真 等色相面 (5Y) の明度と彩度

(1) 色相

色相は色合いを色名の頭文字をとったアルファベット記号と数字の組み合わせによって示す仕組みになっている。赤 (R)・黄 (Y)・緑 (G)・青 (B)・紫 (P) の5つの基本色相と、その中間にある黄赤 (YR)・黄緑 (GY)・青緑 (BG)・青紫 (PB)・赤紫 (RP) からなる10色相によって色相環を構成し、それをさらに細分化するために0から10までの数値を組み合わせることで全体を100分割している。

例えば、黄 (Y)系色相の5の位置にある「5Y」の色相の位置には「図 等色相面 (5Y) の明度と彩度」に示すような色彩が含まれる。

(2) 明度

明度は明るさを0から10の数値で示し、数値が大きくなるに従って明るさが増す仕組みになっている。理論上の完全吸収の黒を0、完全反射の白を10で示し、その間を10分割して明るさを段階的に示す。色相をもたない無彩色は、明度のみで色を示すことになるため「N9」などのように最初にニュートラルの意味を示す「N」をつけて表記する。

(3) 彩度

彩度は鮮やかさを数字で示し、数値が大きくなるに従って鮮やかさが増す仕組みになっている。無彩色の彩度は0であり、色味を増していくにしたがって数値も大きくなっていく。各色相で最も鮮やかな色彩を示す最高彩度は色相によって異なり、JIS標準色票では、赤・黄系の最高彩度が14程度、青系の最高彩度が8から10程度となっている。

(4) マンセル記号

以上のように、マンセル表色系は、色相、明度、彩度の要素からなる色の三属性によって構成される立体として考えることができ、そこに実際の色を配してみると「マンセル色立体」のようになる。

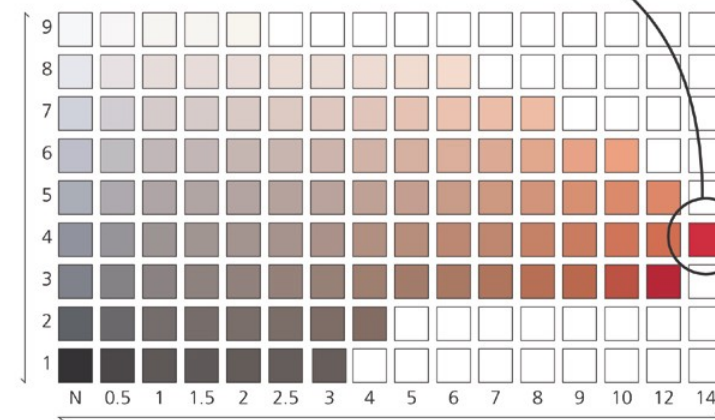
これら3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものがマンセル記号である。

次の例の色彩は、5Rの色相に属し、明度が4.0、彩度が14.0であることから「5R4.0/14.0」と記し、「5アール、4.0の14.0」と読む。

5R 4.0 / 14.0

色相=色合い 明度=明るさ 彩度=鮮やかさ

読み方 < 5アール よん の じゅうよん >



■図 マンセル記号による色彩の表示方法